

村上洋子の いきいきレポート

◆発行/稲城・生活者ネットワーク ◆〒206-0804 稲城市百村 1608-3-202 ◆Tel・fax 042-379-2435
◆発行責任者/村上洋子 ◆Email:inagi@seikatsusha.net ◆http://murakamiyoko.seikatsusha.me



【平成31年3月議会 一般質問 3/6】

*市議会の録画をご覧ください。生活クラブ生協の「グリーンシステム」と「リターナブルピン」の紹介をしています！

○保育の質の確保を!!

■急ピッチで進む保育所の増設、幼児教育無償化の中、保育の質の確保が重要です！市の認識や子育て支援コーディネーターの役割、関係機関の連携について問いました。

A：児童を安全かつ健全に育成するために保育環境・保育内容・保育人材を一定水準確保する必要がある。2名の子育て支援コーディネーターを中心に市内施設の「指導検査」を都と共にいき、全ての施設が連携・協力し対応していくことが重要と考える。

▼保育経験の豊富な「子育て支援コーディネーター」が子ども家庭支援センターに2名配置されています。全ての保育施設を巡回し、助言・指導したり、子ども施設関係者の研修を年2回主催します。これを中心に、認可保育所以外の全てのこども関連施設がネットワークの輪に参加することが重要です。



○虐待の点検は？

■千葉県野田市の事件を受けて、国による虐待対応の緊急点検が行われています。市の対応と課題の整理、DVの理解等について聞きました。

A：緊急点検を行っている。課題の整理は関連部署との連携を図り情報共有している。職員研修ではDVの基礎知識に触れ、相談を受ける部署では研修などでスキルアップをしている。市の虐待対応の取り組みで強化すべきは妊産婦の時期からの早期予防と「要保護児童対策地域協議会」で情報共有を図り組織的に対応することである。

▼虐待対応の要は情報共有と横断的な組織的対応です。また「子育て支援コーディネーター」は「ひろば事業」や「相談」により虐待対応でも重要な役割を担います。

○プラスチックごみの削減を 市民参加で!

■プラスチックによる海洋汚染が大きな社会問題として注目される中、稲城市は環境省が主催する「プラスチック・スマート」フォーラムに参加します。プラスチックごみの削減について市長に問いました。

A：市では、更なる排出規制に向けて、市民への周知啓発に取り組むとともに、中央環境審議会を通じ、レジ袋の廃止やペットボトルのデポジット回収といった制度面での強化を含め国に対しても対応を求めていく。川上から川下までトータルで取り組む必要があり『オールジャパン』で取り組んでいくことが肝心。

▼市民の関心の高い課題でもあり、庁内の会議やイベントでペットボトルのお茶や使い捨てのプラスチック容器をやめるなどすぐにできることもあります。子どもも含めた市民参加で、一緒になって考え取り組むべきと意見を述べました。

○市内産農産物を給食に使い 農地を残そう!

■農薬などをなるべく使わないで育てた市内産農産物を給食で使い、農産物を買収する事業、農産物を必要に応じて加工する事業、援農などの事業を市と農協やNPOなどの市民団体が協力して行うことで、農業の継続、農地の健全化、共に働く場の創出などができるのではないか。

A：市では現在、市内農産物の学校給食への供給を推進するため補助金を設け、市と協力している。また、援農ボランティア推進事業も進めており、他自治体の取り組みなども見ながら研究していく。

▼2022年に「生産緑地」の見直し時期が来ます。この時に農家の方が農地を残したくなるような仕組みを是非つくっていきたいと考えます。